

# 最近の調査報告

竹島問題研究会副座長 杉原隆

平成 22 年 8 月 23 日

## 1. 神戸市立博物館所蔵の「子山島」の載る「江原道図」

「朝鮮地図帳（仮）」（館蔵品目録・地図の部 5 朝鮮地図関係No.165）

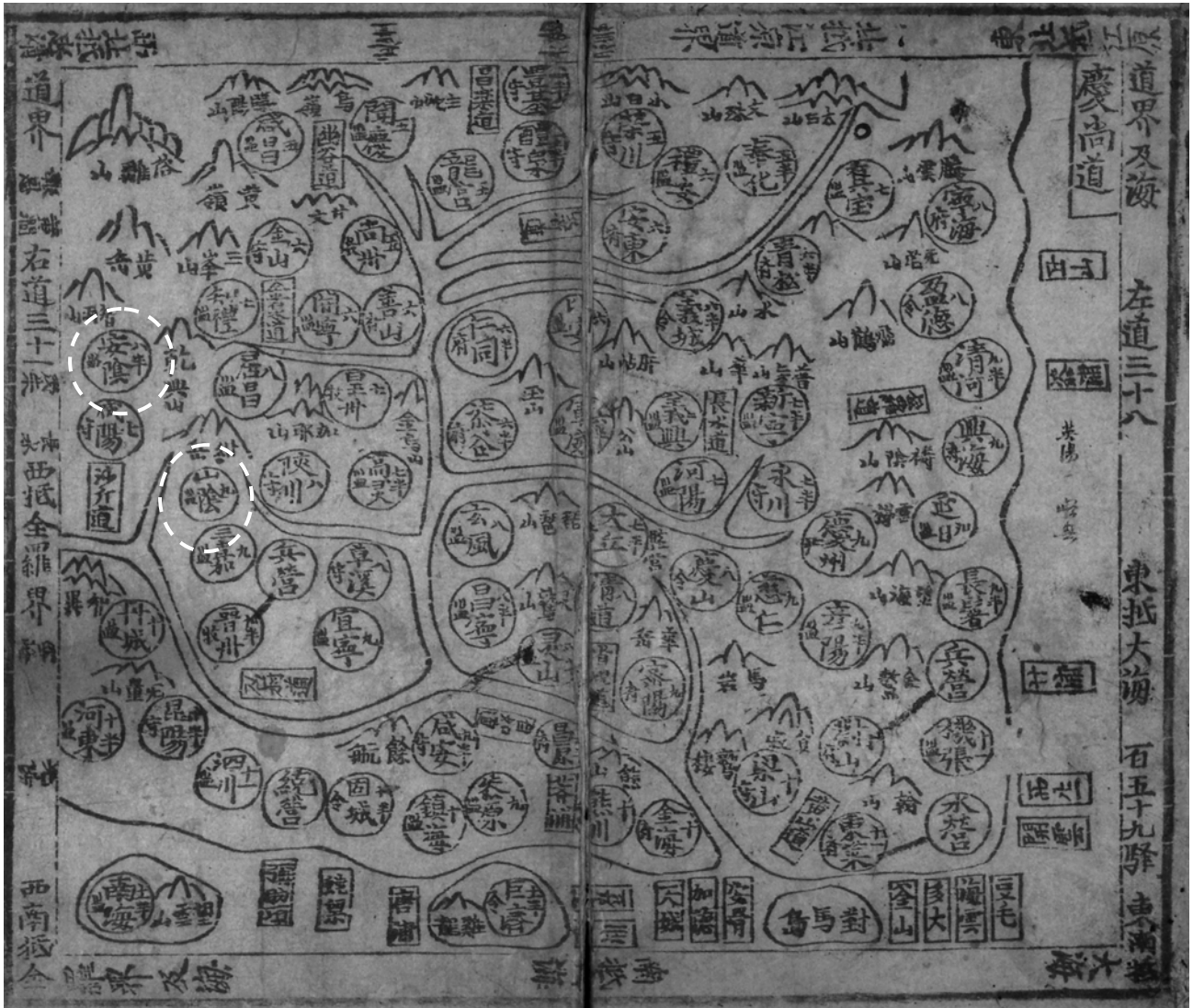


「江原道図」

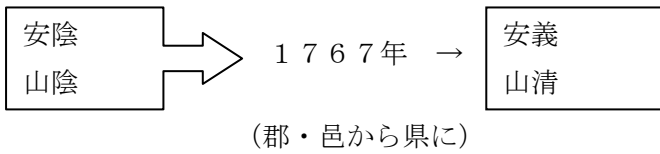


「咸鏡道図」

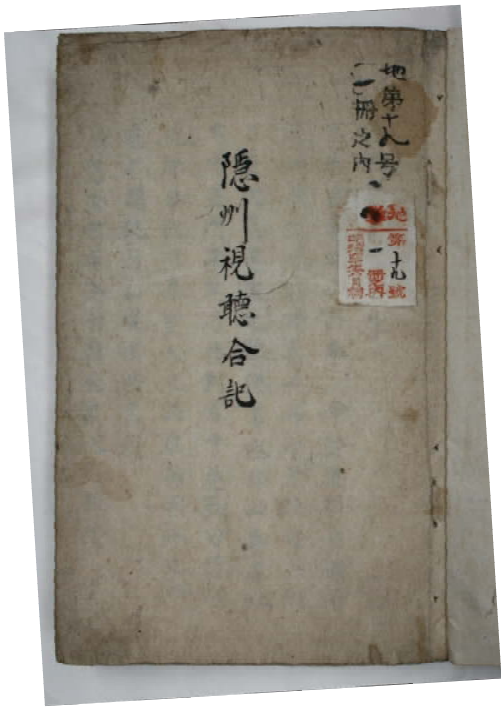
茂山都護府が 1684 年に設置される



「慶尚道圖」



2. 隠岐知夫村佐藤家の「隠州視聴合記」について



佐藤家本（古代出雲歴史博物館所蔵）

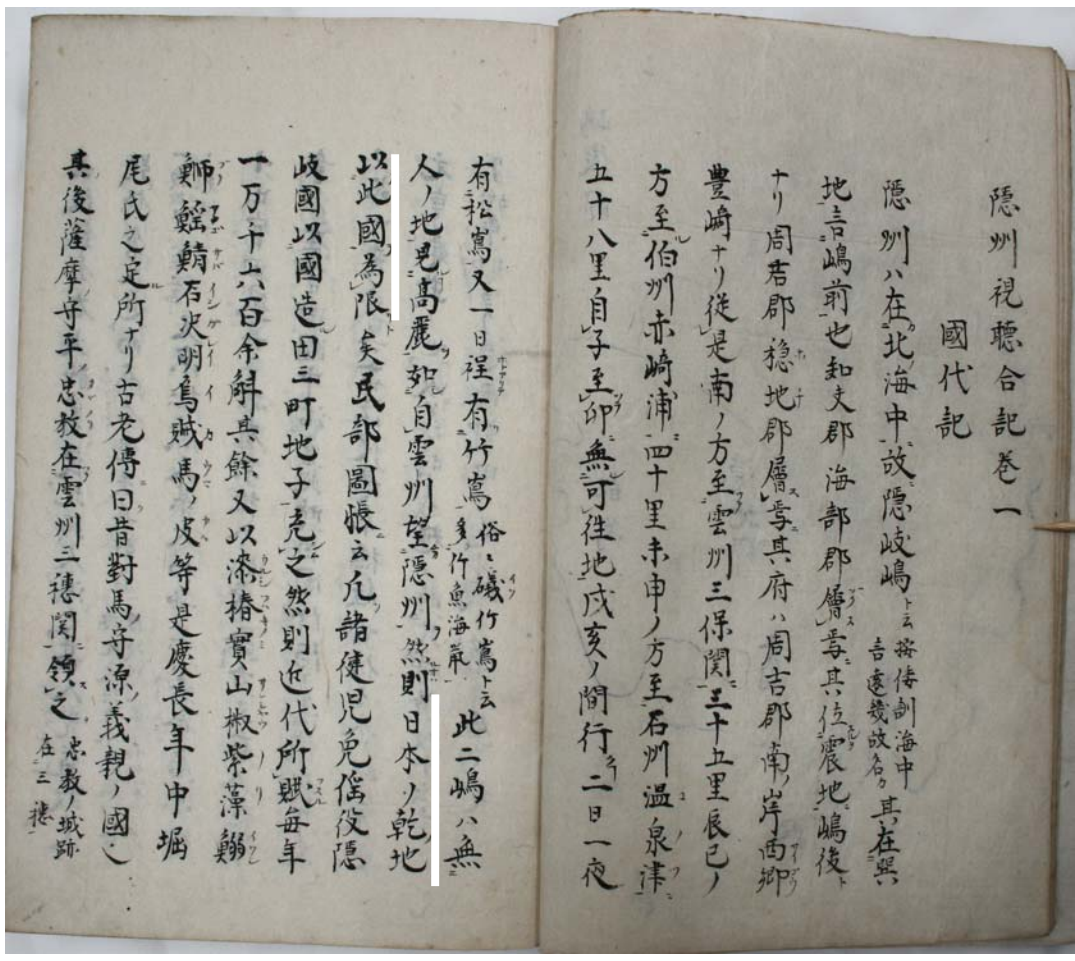
富永芳久の筆写

富永芳久：文化 10（1813）～明治 13（1880）

近世末期の歌人、神職

出雲大社の神職で代々国造北島家に仕えた社家に生まれた。和歌は幼少から千家俊信に師事し後に本居内遠につき専ら国学を修めた。

（『島根県歴史人物事典』平成 9 年山陰中央新報社 より）



佐々木家本

(隠岐の島町教育委員会所蔵)



隠州視聽合紀卷一  
 國代記  
 隠州在北海中故隱波嶋按倭列海中言島前也知史郡海部郡屬焉其位又震地言島後也周吉郡穩地郡屬焉其府者周吉郡南岸西端豐崎也從是南方至雲列美穩關三十五里辰巳方至伯列赤崎浦四十里未申至石列温泉津五十八里自子至卯無山往地戎亥卯行二日一夜有松嶋又日程有竹イリヤト子イリヤト嶋イリヤト國史イリヤト

俗言磯竹嶋此二嶋無火之地見高麗如自雲列望隱列然則日本之孰地以此列為限矣民部圖帳云凡諸見使免後役隱波國以國造田三町地充之然近代所賦每年二千六百餘斛其餘又以漆椿安山椒茶土屋鞠鞠石次明馬賊馬皮等是慶長年中坂尾氏之所定也古老傳曰昔對馬守源義親之國也其後薩摩守平忠教在雲列美保關領之忠教城跡在三保其後鐘倉時親若大將家使地頭人治之其人鬻首國人鐘倉道而不若遂失其姓者按此人佐々木隱波列官恭清之二孫也然之行氏之類祖子云云

『出勝問』本居宣長

玉 勝 問

六〇

国々の名を… 古事記伝三元  
 にも「世に国々の名を一字取  
 て某州と云ふことあるは、  
 中ごろなまごかしき者の、漢  
 国の定めに初ひひて云初た  
 る私ことにして公の御制(ひ)  
 にあらず。豊國には、州と云  
 御制はなきことなり」と論じ  
 た一節がある。  
 わたくしの漢文 本朝文藝九  
 「春日於右監門藤將軍亭三變  
 熊州刺刺史赴任勅諭例」  
 など。  
 或儒者 未詳。やや似た論議  
 として、秋生徂徠の商畧別志  
 (卷二)に「旧事記にのせたる  
 国名は百四十四有り。くには  
 郡といふ事なり。其後國の字  
 に替へたるは、張本にする心  
 なるべし。されども國の字の  
 意を誤りて州の字の意とせ  
 り」とあり、善川大綱の正名  
 總言上(存)に「年刊にこれを  
 引いて「夫れ郡県の世に國の  
 名なきは若生を待たずして之  
 を知る。而して當時の博士の

三 国を州といふ事  
 国々の名を、某州といふことは、いづれの御代の御さだめにもあらざること也、いにしへは、わ  
 たくしの漢文などには、いとまれまれには見えたれ、たゞしきおほやけの物には、みな某国  
 とのみありて、州といへることはさらに見えず、然るを近き世の人は、かゝる上の御さだめをも  
 わきまへしらず、みだりにからめかすことをのみ好みて、某国といふよりは、某州といふをうる  
 はしき事に心得て、いひも書もすなるは、いかにぞや、前後上下などに分れたる国の名の、一字  
 にてはまきるゝをば、野之上州下州、あるは越前州筑後州なども書めり、そもく國の字も州の  
 字も、同じく久爾にはあれども、奈良御代などよりは、かゝることもみな、その文字を定められ  
 て、心にまかせてはかゝることとなるをや、又或儒者のいへるは、國といふは、封建の制にこそ  
 あれ、皇朝も、郡県の制になされたる世には、州などゝこそいふべけれ、國と定められたるは、  
 あたらぬ文字也といへるは、漢國の今までの例になづみて、中々にかの國のこゝろにもあらず、  
 いみじきひがごと也、まづかの國の今までの例とは、封建といひし代には、齊國魯國などいひつ  
 れども、いはゆる郡県になりてよりは、某國といふことは、今までの代々には、例なければ也、  
 されどそれになづめるは、中々にかの國のこゝろにもあらずといふゆゑは、すべてかの國にて、  
 かやうの物の定めは、さきくの例にはかゝはらず、其時々の王の心にて、いかにもく定むる

『諸国名義考』浜田藩藤原彦麻呂

七道諸國郡郷之名著者好字云々りし延喜氏部式  
 凡諸國部内之郡里等之名并用二字必取嘉名云々り  
 一)一字あるハ韻字と云ハ或ハ上下前後して  
 或ハもあつて二字とハ三字あるハ畧きて二字  
 嘉名を唱へ好字と改らハ中ハふ字音の  
 号も出來る也

○國号を何州某初をといふハ後世小ざしとも儒者  
 外國ヨ習ひて書始しハ廣くありて  
 朝廷の御制はあハ故ハ古書ハ、その名目ら  
 けハ可敷事ハ、神代書ハ、漢書ハ、  
 嶋といふ義よて州ハ異る

○諸國の廣狭行程遠近民戸田税人物産物等ハ諸書ハ  
 わづつてこゝろよるゝびらハ國の名義を論ふの

文化六年五月

藤原彦麻呂

# 2010年度第15回東アジア近代史学会研究大会

・大会テーマ 「韓国併合再考—王朝体制の滅亡と日本—」

・日程：2010年6月19日(土)～20日(日)

・場所：国士館大学梅ヶ丘校舎34号館B301教室

6月19日(土) 午前9時30分受付開始

## ●自由論題報告(10時00分～13時00分)

1860年代の中国における上海欽差大臣の改編論議

上野 聖薫 氏(豊田大谷高等学校)

日清戦争前のイギリスの極東政策 1887-1893年—朝鮮問題を中心として—

小林 隆夫 氏(愛知学院大学)

日本統治初期台北の都市開発—土地収用政策を中心に—

新田 龍希 氏(東京大学大学院博士後期課程)

日本統治下台湾における医師社会の階層的構造と学歴主義

—台湾総督府医院勤務医人事を中心にとして—

鈴木 哲造 氏(台湾師範大学大学院博士後期課程)

ロシア側から見た伊藤博文暗殺—日露関係の危機と克服—

麻田 雅文 氏(日本学術振興会特別研究員PD)

国民政府の対日戦後処理構想の政策決定過程—カイロ会談の準備を事例に—

楊 子震 氏(筑波大学大学院博士後期課程)

## ●歴史資料セッション「日本における公文書の保存問題—公文書の私蔵化が語る日本的公文書の残り方—」

(14時30分～17時30分)

趣旨説明/司会 岩壁義光 氏(宮内庁書陵部)

近代日本の公文書管理の実態—内閣文書・外交文書・陸軍文書を事例に—

檜山 幸夫 氏(中京大学)

公文書の「扱い方」に見る政治文化—日本的統治のあり方をめぐって—

佐道 明広 氏(中京大学)

公開された日韓会談の記録について

藤井 賢二 氏(姫路市立姫路高等学校)

●総会 (17時30分～18時)

●懇親会 (18時30分～)

懇親会参加費：一般(6000円)・院生・学生(3000円)

6月20日(日) 午前9時30分受付開始

## ●シンポジウム「韓国併合再考—王朝体制の滅亡と日本—」 (10時00分～17時00分)

趣旨説明/司会 加藤聖文 氏(国文学研究資料館) / 永島広紀 氏(佐賀大学)

第1部 近代日本と韓国の保護・併合

韓国併合と日本近代史研究

井口 和起 氏(京都府立大学)

併合と自治の間—伊藤博文の国際/韓国認識と保護政治

森山 茂徳 氏(首都大学東京)

第2部 「保護」される大韓帝国の自己認識

併合に至る時期の大韓帝国の政治状況—保護条約から併合条約にかけて—

原田 環 氏(広島県立大学)

韓国の保護・併合と日韓の領土認識

塚本 孝 氏(国立国会図書館)

第3部 大韓帝国皇帝から「李王」へ

「王公族」の創出と日本政府の対韓政策

新城 道彦 氏(九州大学)

韓国統監府から朝鮮総督府への「旧慣」の保存と継承

永島 広紀 氏(佐賀大学)

コメンテーター

岩壁 義光 氏(宮内庁書陵部)・月脚 達彦 氏(東京大学)・石川 亮太 氏(佐賀大学)

日韓領有権問題をめぐる国家・地域・歴史の交錯  
第3回 竹島／独島研究会（第24回日韓・日朝交流史研究会）

日時：2010年7月23日（金）／場所：広島大学学士会館2階レセプションホール（広島県東広島市西条）

主催：島根県立大学 NEAR センター、啓明大学校国際学研究所

後援：日韓・日朝交流史研究会、韓国東北亜歴史財団

10:00～10:10：開会の辞（島根県立大学 NEAR センター長：井上治）

10:10～10:20：後援者あいさつ（東北亜歴史財団独島研究所長：李薫）

10:20～10:30：韓国側代表者あいさつ（啓明大学教授：李盛煥）

10:40～12:00：第1セッション「領有権問題における地域行政の交錯」

<司会> 佐藤壮（島根県立大学）

・福原裕二（島根県立大学）：「竹島と島根県」

・李盛煥（啓明大学）：「独島と慶尚北道」

討論者：張基善（東北大学）／玄大松（成均館大学）

12:00～13:30：昼食（学士会館内レストラン「ラ・ポエーム」）

13:30～14:50：第2セッション「領有権問題をめぐる主権国家の戦略」

<司会>李盛煥（啓明大学）

・佐藤壮（島根県立大学）：「領土問題における正統化戦略」

・朴昶建（国民大学）：「日本の竹島協商戦略」

討論者：福原裕二（島根県立大学）／金龍珉（昌原大学）

14:50～15:10：休憩

15:10～16:30：第3セッション「領有権問題以前の史的展開の再検討」

<司会>井上治（島根県立大学）

・森須和男（NEAR センター市民研究員）：「天保竹嶋一件裁決後の鬱陵島と日本人（一）」

・朴炳涉（啓明大学校）：「安龍福事件の再検討」

討論者：杉原隆（島根県竹島問題研究会副座長）／金龍煥（東北亜財団独島研究所）

16:40～17:30：総括討論（司会：福原裕二）

（発表者、討論者など、参加者全員）

18:30～20:30：懇親会（学士会館内レストラン「ラ・ポエーム」）

◎報告者の報告時間は30分、討論者のコメントは10分、それぞれ時間厳守とさせていただきます。

◎本研究会の運営にあたっては、平成22年度文部科学省科学研究費補助金（若手研究 [A]）「新視点に基づく竹島／独島の総合的研究」、平成21年度福武学術文化振興財団「歴史学・地理学研究助成」（研究課題名：鬱陵島の近代—水産業の史的展開を軸にした知られざる日本という存在の実証的解明—）、2010年度平和中島財団「アジア地域重点学術研究助成」（研究課題名：竹島研究における第三の視点に基づく『地域にとっての竹島』の実証的研究）の助成を受けています。